

予報期間 1月31日から2月6日まで

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 2月2日は、日本付近は冬型の気圧配置で、低気圧がオホーツク海でほぼ停滞し、大陸の高気圧が華中東岸に移動する。
- 3日は、高気圧が東シナ海へ移動して日本の南に張り出し、日本付近は冬型の気圧配置が次第に緩む。
- 4日は、高気圧が日本の南へ移動し、日本海に気圧の谷が進む。
- 5日から6日は、日本付近は大陸の高気圧と日本の南を東へ移動する高気圧の間となり、気圧の谷が日本付近を東へ進む。

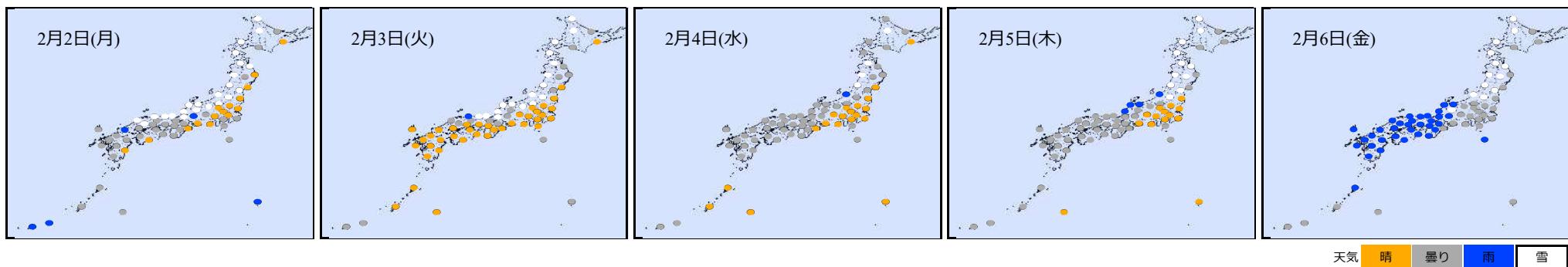
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

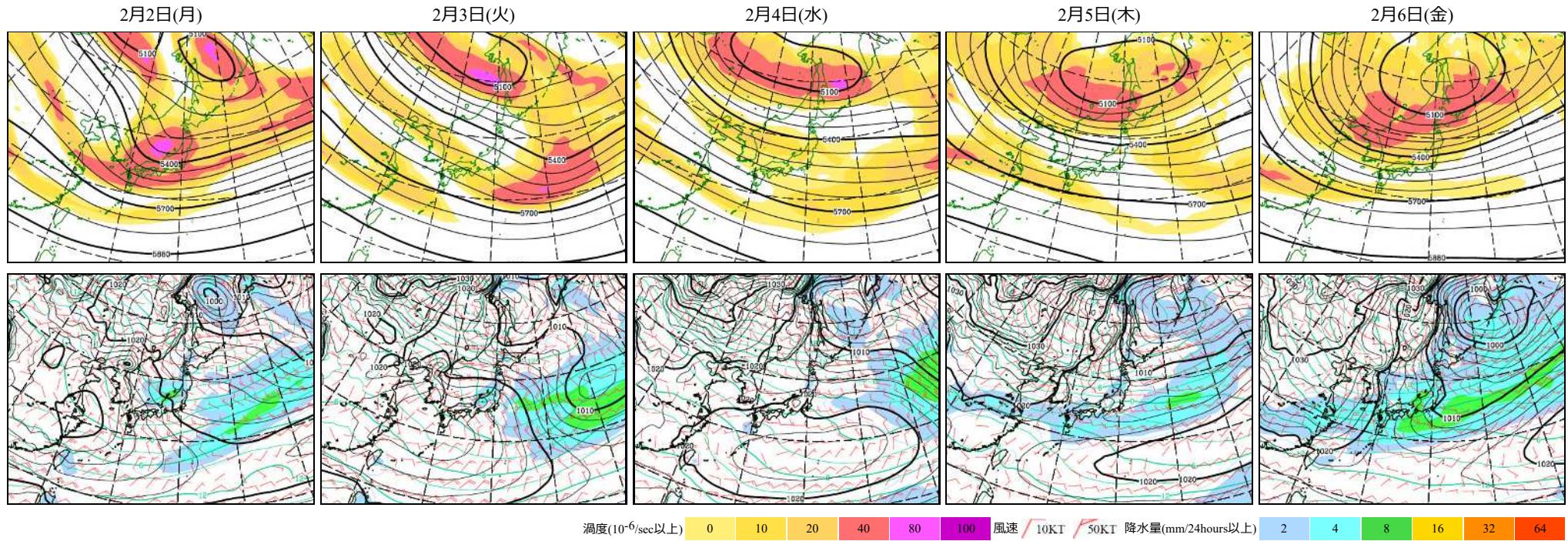
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

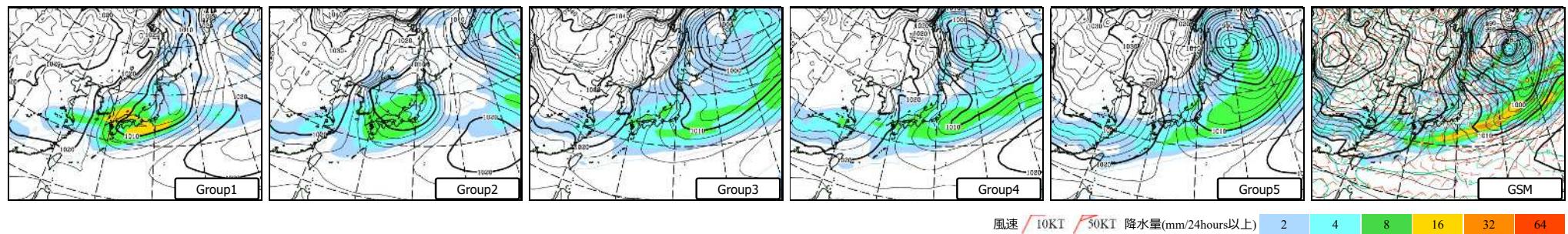


- 北日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 北日本から東日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多い。
- 西日本太平洋側は、曇りや晴れの日が多いが、2月6日は雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや晴れの日が多いが、2月2日と6日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図:500hPa高度線、渦度 下図:海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月6日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、地上は、2月2日から3日にかけて冬型の気圧配置が弱まる傾向となった。5日から6日にかけて日本付近を東へ進む気圧の谷が深くなつた。
- 5日までは各モデルとも概ね揃っているが、6日はモデル間の差が大きい。
- スプレッドは期間の終わりは大きく、5400mの特定高度線のバラつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。